



21世紀の経鷲会活動

経鷲会会長
川野 克美 (S33 経経)

エコミアンの編集担当から「21世紀の……」というすごいテーマを与えられました。ニッポンの再生論から衰退論まで論じられている世紀の開幕ですが、当面はモノやサービスのサプライサイドに多くの変革が求められていることは間違いありません。その結果、これからはしばらくの間、大規模なソリューションの嵐が、時にははずかには、時には音を立てて出現してくるとみられます。

それらのプロセスから誕生する数々の“Tough nuts to crack”がこれからの日本の繁栄をリードすることになるでしょう。21世紀に向かう数々の指針の矢が次々に放たれることになりそうです。

経鷲会活動のこれからの指針は“ネットワークづくり”にあると思います。その関係をビジネスや学びや交際や遊びに生かしていければ、それが当会の目標と言えるでしょう。先般、ソフィアンズ・クラブの経鷲会サロンでそのことが話題になりました。当会をして「知と遊びのプロバイダー」にもっていくにはどうすればよいか、というサプライサイドに立ったテーマです。「あそこへ行けばだれかがいる……」という意味では、毎月第二水曜日午後6時頃から始まる「経鷲会サロン」がピタリです。

しかし、それだけでは物足りないのも事実です。そこに「エコミアン」の役割があります。経済学部の卒業生一人はいろいろな分野で活躍しております。「誰がどこで……」を探りたいという意図がエコミアンの編集ボランティアに芽生えてきました。今回のイシューはその走りとして経済学部長の上妻さん、防衛庁長官の齋藤さんをはじめとして皆様に消息を寄せていただきました。せっかく年二回発行するので、これからもできるだけ多くの方々に登場願ひ、同窓生の消息や経験談、自己PRをうかがいたいと思っております。

それでは、次回の経鷲会サロンで、またお目にかかりましょう。



経済学部と経鷲会 ～学部長就任にあたって

経済学部長
上妻 義直 (S48 経・経営)

本学経済学部の卒業生であり経鷲会の末席に連なる者として、本年1月1日より本学の経済学部長職を仰せつかった旨を、この誌面をお借りして、経鷲会の皆様にご報告申し上げます。

私は昭和48年に経営学科を卒業しましたが、それまでの期間

と大学院での期間を合わせて計9年間を本学で過ごしました。その後、名古屋の国立大学、静岡の公立大学を経て、1991年から本学経済学部で教壇に立っております。ですから、上智大学での生活はかれこれ20年近くにもなるわけです。

この度、学部長として、様々な恩恵を受けた経済学部に対してご恩返しできる好機に恵まれたわけですから、今後とも精一杯職務に励み、また同窓会である経鷲会のために働きたいと考えております。大学内部と皆様との架け橋になれるよう努めますので、宜しくご指導・ご協力のほどをお願い申し上げます。

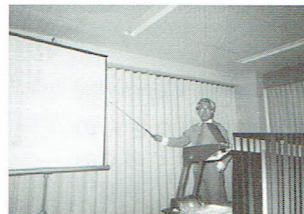
ところで、上智大学は2013年に創立100周年を迎えますが、それを目指して大学の優位性・独自性を高め、国際的な評価を受けられるような高等教育研究機関となるための「上智大学教育・研究・キャンパス再興グランド・レイアウト」が、本年1月に理事会より中間報告として公表されております。これは、いわば上智大学全体の将来構想案ともいえるべき大きなプランです。

現在経済学部では、これに呼応して独自の将来構想案を策定している最中です。いずれ、その内容について皆様にご報告できる時期がやってくると思いますが、経済学部のさらなる発展のために、経鷲会の皆様とも共同歩調をとり将来構想を現実のものとして参りたいと考えておりますので、その折りにも多大なご支援を賜れますよう切にお願い申し上げます。

2000年度総会報告

総務委員長
八木 達郎 (S49 経・営)

平成12年11月18日(土) 14:00より7号館14Fの特別会議室にて、経鷲会定時総会が開催されました。冒頭川野経鷲会会長から「今後代議員の数を見直し、小人数でもいいから活動できる方になっていただいて、活性化を計りたい。今後、活動を続けて行くにはせめて2000人くらいは年会費納入者を確保したい」と熱意のこもった挨拶がありました。

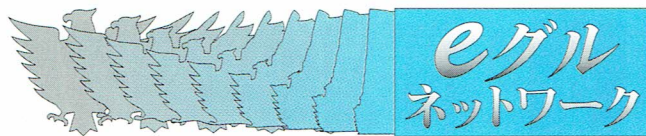


濱田教授の講義風景

総会に続く講演会では、経済学部長(当時)の濱田教授に「発展途上国の経済」というテーマで約



1時間半ほどお話しいただきました。濱田教授のゼミは毎年発展途上国へ学生を引率し、実体験を通して貧困の解消問題を考えるので有名ですが、南アジア・



経鷲会のみなさまへ

前防衛庁長官 斉藤 斗志二 (S43 経商)

昨年末の内閣改造で、国务大臣・防衛庁長官を拝命いたしましたところ、母校からは高祖理事長、カリー学長はじめ、多くの皆様の温かいご祝意とお励ましをいただき、大変恐縮いたしました。四ツ谷のキャンパスで過ごした青春の一こま一こまが、つい昨日のこのように思い出されて、深い感慨を覚えると同時に、国家の存立にかかる神聖な任務に、肅然たる思いを禁じえませんでした。

私は昭和43年、経済学部卒業の後、祖父が創業し父が社長を務めておりました大昭和製紙株式会社の経営に携わることとなりましたが、たまたま昭和59年、当時の中曽根総理が設けられた「臨時教育審議会」の委員に、日本青年会議所の会頭をお引き受けしておりました私が加えられましたことがご縁となって、61年の総選挙で政治の世界に入ることとなりました。

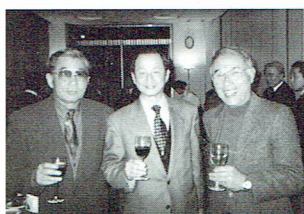
臨教審は私にとって、各界の大先輩からも対等で真摯な議論をさせていただいた時の使命感と申しますか、昂揚した充実感が政治家としての一つの原点でありますだけに、教育の世界にその後も難問山積、今日にいたるも多くの方々が憂慮と焦燥にかられておられるような現状には、まことに忸怩たるものがございます。数年前から2人の娘の父親としての経験も踏まえ、小学校を5年として中学校を4年とする、義務教育の5-4制を提唱しておりますのも、思春期の大事な時期に高校受験だけでなく、体育スポーツをつうじてルールを守ることの大切さを会得するようにすることで、問題解決の突破口になればとの思いによるものです。

また、日露関係の進展に草の根レベルでもお役にたてばとの思いから、「幕末のスパシーボ」というアニメを制作して日露外交の草創期、私の郷里静岡の人々が戦艦ディアナ号の難破に際して、プチャーチン提督らが無事に帰国できるよう、初めての洋式船の建造に協力したこと、そしてその時の人々が明治以降の造船日本を築いたという、心暖まる物語を取り上げてみました。すでに日露の各地で上映しておりますが、案外この小さなエピソードが国際関係の在り方について示唆するところは大きいようで、先年の日露首脳会談の冒頭、当時の橋本総理からエリツイン大統領に贈呈されるという光栄に浴しました。

教育、あるいは体育スポーツとならんで私が注力しておりますのが高度情報化社会の構築に向けた放送のデジタル化、ITS、高速大容量のネットワーク建設など、明日の日本を強くするにはどうしたら良いかということです。バイオ、原子力なども含め、わが国の科学技術は決して他国に遅れをとることはないと思っておりますが、むしろ憂慮すべきは、政治に対する国民の期待や願望とは別のところで行われる国会での政争の繰り返し、その結果としての国民の政治への無関心ということに尽きるのではないのでしょうか。

国民が内政外交両面にわたってわが国の将来を託し、政治が責任をもってその役割を果たせる体制を構築することが喫緊の課題です。

私は一昨年、このような立場から小著『首相民選』で、首相選択に関する国会の意思決定のプロセスに国民の判断を取り入れることを主張することといたしました。衆議院選挙の後、召集される特別国会までに、国民投票により国会で議決されるべ



インド・バングラデシュ・パキスタンのように、国民からも企業からも徴税ができない国の実態や所得税を納付できるのは国民の10%に満たない話など、我々の日常からは想像できない内容に、経鷲会会員および聴講の方々には熱心に聞き入っていました。今の経済学部の学生がどんな先生にどんな授業を受けているのかを体験できるいい機会だったと思います。



講演のあと、ソフィアンズ・クラブにて、恒例の懇親会に移りました。ここでも、濱田教授の余談に花が咲きました。濱田先生どうもありがとうございました。

講演のあと、ソフィアンズ・クラブにて、恒例の懇親会に移

2000年度後期事業計画について

事業企画委員長 上原 隆一 (S51 経営)

いつも経鷲会の行事にご理解とご協力を賜りありがとうございます。本年、事業企画委員会では経鷲会を通じてOB相互のコミュニケーションの充実を計ると共に、現役学生と様々なシチュエーションでの交流を求めて事業活動を展開しております。大学側もこの活動に賛同し大きな協力を頂戴できております。具体的には毎月定例で行っている経鷲会サロン(毎月第二水曜日-その月2回目の水曜日)の際、現役学生に門戸を開放し就職の相談等に協力したりしております。また就職相談会もマスコミソフィア会、鷲士会と協力しあいながら開催いたしております。平成12年度も後期に入りましたが今後の活動に会員各位の一層のご理解とご協力をお願いいたす次第でございます。

1. 定例経鷲会サロン 毎月第二水曜日 18:30より
ソフィアンズ・クラブにて
2. オールソフィアンの集い 5月27日
ソフィアンズ・クラブにて
 - (1) 経鷲会コーナー 11:00以降 OBの情報交換の場提供
 - (2) ワインセミナー 11:30以降 「自分流~ワインの表現力アップ」
 - (3) 囲碁同好者コーナー 11:00~15:00 (会場は未定)

お知らせ:「エコノミアン」では、相互の情報ネットワークを広げるために、みなさんの「投稿」「寄稿」を歓迎します。なるべく多くの方が紙面に登場してもらうために、次の要領でお願いします。(次回発行は10月の予定です。)

- * 内容は個人的な消息(仕事、交友、暮らしなどの体験談)、自己PRなど。
- * なるべく800字以内
- * あて先: 経鷲会事務局(東京都千代田区紀尾井町7-1上智ソフィア会内)



き首相候補を決定するもので、いわゆる首相公選のように憲法を変えて大統領制に近いものを目指すものではありませんが、問題意識においては双方相通じるものがあり、必ずや多くのご支持をいただけるものと考えております。

政治家はそれぞれに幾つかのライフワークに取り組んでいく一方、折々、政治課題への対応を迫られ、またこのたびのように閣僚としての大任を帯びることもあるという訳で、文字通り浅学非才を顧みず刻苦勉励、粉骨砕身の毎日です。どうか今後とも倍旧のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、同窓諸兄ますますのご活躍をお祈り申し上げて、ペンをおきます。

「グローバルな青年会議所活動」を振り返って

稲数 則光 (S59 経・経営)

私は経済学部経営学科卒業の稲数則光と申します。今回原稿を依頼されました事で卒業生の方とお話をさせて頂いたり、学生時代の事を思い出したりする機会を頂き、卒業以来母校と接触する機会がほとんど無かった私としましてはとても懐かしい想いをさせて頂いております。

さて、私が今回書かせていただく内容は、私が12年間所属しておりました社団法人東京青年会議所の活動についてであります。青年会議所のお名前をご存じの方もいらっしゃるかも知れませんが、青年会議所(Junior Chamber=JC)とは社団法人であります。商工会議所のような経済団体ではありません。理念に「明るい豊かな社会」の構築を謳う市民ボランティア団体であります。但し、年齢制限があり、東京青年会議所(東京23区)では25歳から40歳までの市民であれば入会可能です。

昭和24年に戦後の荒廃を憂い48名の創立メンバーのもとに、自己修練(トレーニング)、社会奉仕(サービス)、友情(フレンドシップ)の3つを信条とし運動がスタートしたのです。現在では日本全国に約750の各地青年会議所があり、約5万人の会員を有する組織に成長致し、各地で精力的に運動を展開しております。東京青年会議所の主な事業として、経済セミナー、政治家との懇談会(国政、都議会、他)、青少年教育(小学生の全国相撲大会: 於国技館)、手足の不自由な子供達のキャンプ、中国経済ミッション(北京)、国際連合NGO会議への出席(ニューヨーク国連本部)、など年間約80の事業を行っています。

また青年会議所は世界組織でもあり、国際青年会議所(Junior chamber International=JCI)は青年会議所運動発祥の地であるアメリカ合衆国のマイアミに本部を置き、世界123カ国に6千以上の青年会議所、約24万人の会員をもって構成されています。

ちなみに私は昨年、国際青年会議所(JCI)へ副会頭として一年間出向しておりました。副会頭は世界各国から17名が選挙により選出され、各人が担当国を5から8カ国ほど受け持ち、青年会議所運動の活性化のために啓蒙、広報活動をする仕事をしています。あくまでもボランティアであり仕事の合間に出張をするのですが、私の場合は中南米の6カ国を担当し、年間で7回(70日間)ほど出張をいたしました。現地では当地の青年会議所のメンバーに例会でスピーチをしたり、広報のために政府の要人や財界の方々との会合を重ね、運動の活性化に努めて参った次第です。

よく、多くの方々から上智大学卒業という英語がペラペラであると勘違いされますが、私自身は日常会話程度ならまだしも、英語でスピーチや議論を行うこと自体初めてでしたし、担当した中南米はスペイン語を話す国が多いだけではなく、フランスやオランダなどの植民地も多く、文化・風習も違う国においてのコミュニケーションにはとても苦労いたしました。しかし、これも我々青年会議所の信条の一つである「修練」である

と理解し、この得難い経験から学んだことを私達の地域や自分の事業に反映できるように努めて参りたいと思っております。

阪神淡路大震災のボランティアへ参加したり、国際会議へ出席することから地域のゴミ拾い運動まで、特定の政治団体や宗教への偏りを全く排除した、青年の自由でのびのびとした感性に基づいたこの青年会議所運動にご理解ご協力頂き、またご興味のある方はご参加を頂くことを切にお願い申し上げます。

(株式会社大成企業ビル 取締役社長)

“What am I doing”

国連工業開発機構主席統計官
山田 哲夫 (S45 経経)



I joined the Vienna-based United Nations Industrial Development Organization (UNIDO), one of the UN "Specialized Agencies", in 1976.

From 1976 through 1978, worked in the Caribbean as a technical cooperation project team member. From 1980 through 1990 or so, worked as a research economist producing chapters or whole part of various sales empirical-research publications on manufacturing. From the early 1990s to date, as the manager (and as the chief statistician) of UNIDO's statistical activities, I have been working for the development and the maintenance of UNIDO's global industrial statistics database system which is huge and extremely complex. UNIDO has the sole responsibility in the international statistical community for the compilation and worldwide dissemination of key industrial statistics. We collect data from national statistical authorities via country questionnaire and supplement them with our estimates. Our databases contain annual time series on detailed economic industrial statistics for individual 170 countries for dissemination and our own use. We sell the data in electronic form (e.g., CD-ROM, Excel and other flat files) and hardcopy form (e.g., UNIDO International Yearbook of Industrial Statistics).

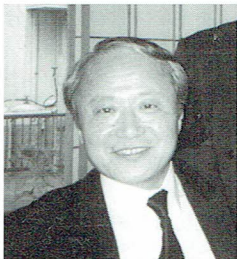
In addition to managerial work, I develop statistical methodologies to be employed by us to improve the quality and coverage of the databases. Furthermore, I am often involved in preparation of ad-hoc analytical papers for specific subjects such as competitiveness, productivity, structural changes, etc. of the manufacturing industry. In addition, I participate, as a regular member, at various major international statistical conferences (most of them are UN-related ones and sometimes we host them.).

Further on top of them, I ride on my horse almost every evening after work regardless of weather and my health conditions. Furthermore, I go for a long walk twice a week with our three extremely sweet (two Jack-Russel terrier and one Dorbermann.)

As before, I often go out in the evening for fun with my friends and/or wife, Juli. Juli and I still play Country and Western music in public at least five times per year.

Yet I keep average seven-hour sleep per day. How? I really don't know.

Juli has been busy drawing and painting animal portraits on the order base. She is a great cook as before. She also rides on my horse regularly. I'm glad that she quit last year teaching at an international school here in Vienna. We have a lot of good friends most of them are horse-back riders.



「清話会のこと」など

貝田 勇三 (S37 経経)

私は昭和37年経済学部経済学科卒業の貝田(かいだ)と申します。日立製作所で35年勤務し、知人の関係で現在は清話会にて営業活動を行っております。

清話会は昭和13年の創立以来、一貫して企業の事業発展と日本経済の成長発展に寄与するための情報を発信している団体です。ソフィアの会合などでも当会をご存知の方が何人もいるのには驚きました。現在は経営に役立つ情報を満載した機関誌「先見経済」を発行し、また、一流講師による講演会(年約100回)の開催など知的サービスの提供を主な仕事としております。ちなみに、先日は新丸ビル大会議室でメリルリンチ証券チーフエコノミスト、イエスパー・コール氏の講演「日本経済これから黄金期へ」がありました。300人余の会員が熱心に聴講し、活発な質疑を行いました。

現在、会員数は3万名です。発音が同名の政治団体清和会(自民党)とは一切無縁です。個人でも法人でも全国どこからでも入会できます。入会金1万500円、年会費45,874円で正会員になれますが、今回は経経会、ソフィア会のかたがたには特別なサービス付きで優遇条件にて入会斡旋をいたします。とくに、経営の仕事をしている方や知的興味を失わないハッピーリタイヤード・ソフィアンには必ずお役にたてると思います。是非とも下記へご一報いただければご案内申し上げます。

はなはだ勝手ながら、誌上をお借りして自己紹介とPRをさせていただきます。(清話会主査)

連絡先：〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-7-12
電話 03-3262-0181 FAX03-3264-4647

アントレプレナー紹介



ベルリンから ミラノへ

柳本 信一郎 (S38 経商)

人はどんな会社で、どんな役職にいて、どんな面白い仕事をしようと、必ず終わりが来る。定年である。定年後の身の振り方は人それぞれで、再就職の道を選ぶ人もいれば、悠悠自適の人生を送る人もいる。しかし定年後就職したくても思うような仕事はないのが現実である。面白い仕事をしたいと思えば、自分で会社を興すしかない。ベンチャーと言っても文字通り失敗する確率が高いから、多くの人は二の足を踏む。退職金や年金で生活していけるのに、何も虎の子の退職金をつぎ込んでまでリスクを犯すことはない。だから行動に移すとすると相当な覚悟がいる。

1994年、私は二度目のベルリン勤務を終え、本業に全く関係ない業界に3年間の出向を命じられた。しかしこれほど不快な職場もなく、ここから抜け出すにはどうしたら良いかを真剣に考えていた。今から3年前、チャンスは巡ってきた。業界の仲間と偶然再会したのを機に会社を興すことにした。30数年の業界経験が生かせる仕事、業界のニッチ、他人に簡単に模倣できない仕事は何かの構想を練った。その結果、行き着いたのがチ

ャータービジネスであった。

このビジネスは欧米では確立されているが、日本ではまだ誰も手をつけていない。「これだ！」と後は一気呵成。各自が資本金を持ち寄って1300万円の株式会社を設立した。何のバックグラウンドもない会社が社会的な信用を得るためにはオフィスの場所が問題であった。航空関連の業務のイメージから、家賃は高くてもオフィスは丸の内と決めた。家賃一年分前払いの条件で6.5坪のミニスペースを借りることが出来た。

電話も鳴らず、新聞を読む日々が続いた。会社を設立してから10ヶ月目、ついに最初の仕事きた!

昨年3月、ある官庁の依頼で、特別ミッションのためにアメリカからジャンボ機を一機チャーターしたのだ。これは元の会社の同僚が紹介してくれたものであった。それからは欧州、アメリカ、東南アジアの航空会社とのチャータービジネスが次第に広がってきた。中でもミラノを本拠地とするイタリアのラウダ航空とのチャーターが大きい。

創始者はニキ・ラウダ。知る人ぞ知る元F1のレーサー。欧米では伝説的な有名人物である。彼は何度か世界チャンピオンになった後、17年前事故を起こし大火傷を負った。引退後パイロットになりウィーンを本拠地とする航空会社を設立した。ミラノにもイタリア法人を設立し、弊社はその日本総代理店になった次第。もし我々の事業に社会的意義があるとなれば、それは定期航空会社が見向きもしない地方空港の活性化であろう。

自らアントレプレナーになって思うのは、物事はやってみないと分からないということである。やれば思わぬ展開をするし、危険を冒しただけの見返りはある。毎日が刺激的だし、何よりも生きている感じがする。

(エアチャーター・インタナショナル株式会社副社長)

キャリアウーマン登場!!



私の細腕奮闘記

木下 和子 (S53 経・経営)

JR大崎駅前の大型再開発プロジェクトで生まれた「ゲートシティ大崎」に、90席あまりの南仏料理“ラフェ・クレール”を開店して2年がたちます。

出店交渉開始から契約まで2週間、一斉オープンまで5カ月しかなく、その間に資金調達、人材確保、スケルトンより甲乙丙工事の設計施工、また、それこそスプーン一本から大型厨房機器の発注にいたるまでの出店準備を、ほとんど一人でこなさなくてはなりません。多くの人に支えられ励まされながら、無我夢中で駆け抜けてきた2年間でした。

ここへ来て、不景気、デフレの影響を少なからず受けておりますが、吟味した食材を、バター、クリームを控えめにしてヘルシーに仕上げた料理の提供は、お客様から好評をいただいております。週末にはレストラン・ウエディングもお受けいたしております。

「事業は下りのエスカレーターを駆け上がっているようなもの」という言葉がしみじみと思ひ起こされます。少しでも気を抜くと、アッという間に下がってしまいます。常に上へ上へと向かって、前進あるのみです。

トピックス

第一回オールソフィアンズ囲碁大会開催



写真中央の白いドレスは女流プロの小山満鶴五段（H5文社会）。その左が日本棋院理事長の利光松男氏（S22 経経）。利光理事長の左は今回の名人戦優勝者一宮正人氏（H4経営、6段）。その左は川野克美・経鶯会会長（S33 経経）。小山五段の右は堀井侃・大会競技委員長（S36 経経）。

平成12年12月2日（土）午後、日本棋院八重洲囲碁センターにおいて、経鶯会主催、日本棋院後援で開催した。大会名誉会長は大先輩の利光松男氏（前日本航空社長、現日本棋院理事長）をお願いし、いろいろと御支援をいただいた。

当日の参加者は女性1名を含む26名で、現役学生2名も参加。競技は5～6段の高段者8名による「名人戦」、3～4段8名による「本因坊戦」、2段以下で級位者を含む8名による「基鶯戦」に分かれて実施。第一回ソフィア名人位は一宮正人氏（H4年経営）、本因坊位は遠く室蘭市から参加した黒田仁氏（S35 法法）、基鶯位は笠松亮氏（S43 外英）の各氏が獲得し表彰された。

懇親会は会場を数寄屋橋「銀座クルーズ・クルーズ」に移し、夕方6時から開催。大会名誉会長の利光氏をはじめ上智卒業で女流棋士の小山満鶴五段（H5 文社会）も参加し、盛会となった。利光理事長からは、囲碁に興味を持つビル・ゲイツに頼まれて最高級の碁盤と碁石をお世話してあげたとか、小山五段からは、プロになってから大学で勉強したくなって上智へ入学したなど、おもしろい話が次々に披露された。

第二回オールソフィアンズ囲碁大会開催予告

主催；経鶯会、後援；日本棋院
日時；平成13年12月1日（土）10時～18時
場所；日本棋院市谷本院 3階Aホール
第一次申し込み受付；下記「囲碁同好者コーナー」にて。

オールソフィアンズデー 「囲碁同好者コーナー」のお知らせ

主催；経鶯会
日時；5月27日（日）11時～15時
ゲスト；当日はNHK囲碁番組でおなじみの稲葉禄子さんが1時半頃から「囲碁コーナー」へ遊びに来ます。どなたか、彼女に挑戦する人はいませんか。

大会事務局 古屋 毅（S32 経商）

税務、労務、財務、企画、営業など、すべきことはたくさんありますが、企業の社会的使命の一番は事業を存続させることと心しております。

フランス料理はイタリアン、無国籍に押され気味のこのごろですが、「こんなにおいしくて気軽にフレンチがあったんだ」「こんなにアットホームに楽しく食べれるんだ」と明日も言っただけのように、20台のスタッフたちと店づくりの話し合いに余念のない日々を過ごしております。いはば、業界素人の私です。だからこそ出来る発想、着眼で、こんごも顧客満足度の高い店を目指したいと思えます。一人でも多くのソフィアンのご来店を心待ちにしております。

レストラン；La Fee Claire（ラフェ クレール）
東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎B1F
Tel：03-5437-5550 Fax：03-5437-5048

新しい「知」との遭遇

渡辺 公子（S57 経経）

現在、私は、ブライソウォーターハウスクーパースコンサルタントに勤務しています。コンサルティング業務は、戦略立案からシステム導入まで多岐にわたりますが、基本的には企業が抱えている本質的な課題を抽出し、分析した上で、解決法（ソリューション）を策定し、その実行を支援するものです。私が所属している戦略コンサルティング・サービス事業部では、主に経営戦略・事業戦略、マーケティング戦略、組織設計、人事制度改革、業績評価制度の策定、を支援しています。

コンサルティング活動は通常、クライアントエグゼクティブ（役員）、プロジェクト・マネジャー、メンバー（数名）という構成でチームを組み、推進します。私は現在、プロジェクト・マネジャーとしてプロジェクトの運営管理に携わることが多くなっており、時にはトップマネジメントの方々とディスカッションをしながら解決策を検討することもあります。

企業の経営課題が複雑化・多様化している中で、最適なソリューションを企業に提供していくことは、緊張感のある責任の重い仕事ではありますが、様々な方々の出会いや新しい「知」との遭遇もあり、やりがいのある仕事だと思っています。

ブライソウォーターハウスクーパースコンサルタント
戦略コンサルティング・サービス事業部 マネジャー

高級囲碁サロンのご案内

「ダイヤモンド囲碁サロン」（代表；稲葉禄子、半蔵門ダイヤモンドホテル内）では、経鶯会会員に限り、特別な割引価格（入会金免除など）で入会できることとなりました。

初心者から有段者まで気楽に囲碁が楽しめ、希望者にはインストラクターやプロ棋士がお相手いたします。

入会方法は①この5月27日のオールソフィアンズデー「囲碁コーナー」で事務局に申し込むか②「囲碁サロン」03-3263-0620（受付時間13:00～22:00）へ直接電話してみてください。半蔵門の「囲碁サロン」に立ち寄っても結構です。

【入会申し込み方法】

①この5月27日のオールソフィアンズデー「囲碁コーナー」で経鶯会事務局へ

②または、上記「囲碁サロン」Tel/Fax 03-3263-0620（受付時間13:00～22:00）へ直接電話する。

割引会費（円）：	入会金	年会費	一日利用料
終日会費(13:00～22:00)	10,000	40,000	600
昼間会費(13:00～18:00)	10,000	30,000	600
夜間会費(17:00～22:00)	10,000	30,000	600
曜日限定会費(ご指定曜日)	10,000	20,000	600

トピックス

昭和38年経済学部卒の還暦祝いの集い



去る2月14日(水)夕刻、ソフィアンズクラブにおいて開催。卒業時点で209名だった同期生も、すでに15名が亡くなり、住所の把握できている158名に案内した。

当日は函館から小林正和氏、和歌山から山崎喜久雄氏、特別参加の高橋務氏(昭38外西)等36名が参加した。また、大学からカーリー学長、上妻経済学部長、経鷲会から川野会長が列席され、各氏からゲストスピーチをいただいた。

36名の中で、“当日賞”(当日に還暦を迎えた)の小田島洋助氏、“前日賞”(前日が還暦)で紅一点の松下裕恵氏(旧姓永瀬)、ただ一人の“無資格者”(翌月に還暦)であった金肇氏の三人からはそれぞれ特別スピーチがあった。わいわいがやがやの三時間もあっという間に過ぎ、最後はアルママーテル・ソフィアを声高らかにうたい、近々の再会を誓い合った。

幹事代表；遠藤 千朗 記

クラブ・ファースト(Club 1st)を ごぞんじですか？

小国 敏雄 (S53 経経)



Sophians Clubで毎月1日午後6時から始まる定例会です。1日が休日のときは11日になります。この会の特徴は①ソフィアンならだれでも参加できる②実費程度の会費によるラウンジ形式の懇親会③全学部の学生に無料で参加を認めている、など。これまでのところ、在校生が混んでいるためか、参加者には若い卒業生が多く、とくに女性諸君の参加が目立っています。

ちなみに、この4月は11日(水)となり、経鷲会サロンと合同の例会となりました。経鷲会のエグゼクティブと若手のキャリアウーマンとの“激論”がラウンジをいっそうにぎやかにした感があります。いろいろな職業の人たちが自由に意見交換したり、学生にアドバイスしたりできるのがこの会の「楽しみ」といえるでしょう。

(経鷲会広報副委員長)



ワイン・テイasting・セミナーのお知らせ ～オール・ソフィアンズデイ当日は ソフィアンズ・クラブへ

毎回大好評の経鷲会主催「ワイン・テイasting・セミナー」、今年は少し趣をかえてソフィアンズ・クラブで開催します。猫も杓子もといったワイン・ブームは去りましたが、その中から新しいワインファンが生まれました。自分のライフスタイルの中にワインをしっかりと取り込んで、食事はもちろんオードブルや食後のチーズなどとともワインを楽しむことができるようになると、次にワインをもっと知りたい、食文化に触れたい、ワインを介して更に豊かなテーブルを演出したいと考えるようになりました。1本数十万円もするようなワインを銀座のクラブで開けて、ポッキーをつまみにワインの蘊蓄を傾けなくてもいいじゃありませんか。ワインをもっと身近なものにするためこんなことをやってみようと思います。

1. 堅苦しい話は一切なしとする
2. 自分好みのワインを知る
3. ワインの表現力をつける
4. ワインを介して友と語らう

当日はメルシャン様の絶大なるご支援により数種類のワインを頂戴し、経鷲会がチーズなどの簡単なオードブルを用意します。ワインのテイastingの方法と自分なりのワインの感想を人に伝えられるような表現力が高めるための用語などを記載した簡単なテキストをご用意します。友や先輩・後輩と語りながらゆったりとした時間の中で、ワインとより仲良しになりましょう。

上原 隆一 (S51 経営)

入場無料 経鷲会主催
ワイン・セミナー

「自分流～ワインの表現力アップ」

5月27日 午前11時～午後2時30分
お好きな時間にお越しください

場所：ソフィアンズ・クラブ

協賛 メルシャン株式会社

会費納入にご協力を!

皆様の年会費2,000円で、「エコノミアン」の制作費と郵送費がまかなわれています。郵便局にて下記の口座にお願い致します。

口座番号：00150-8-537559
宛先：上智大学経鷲会